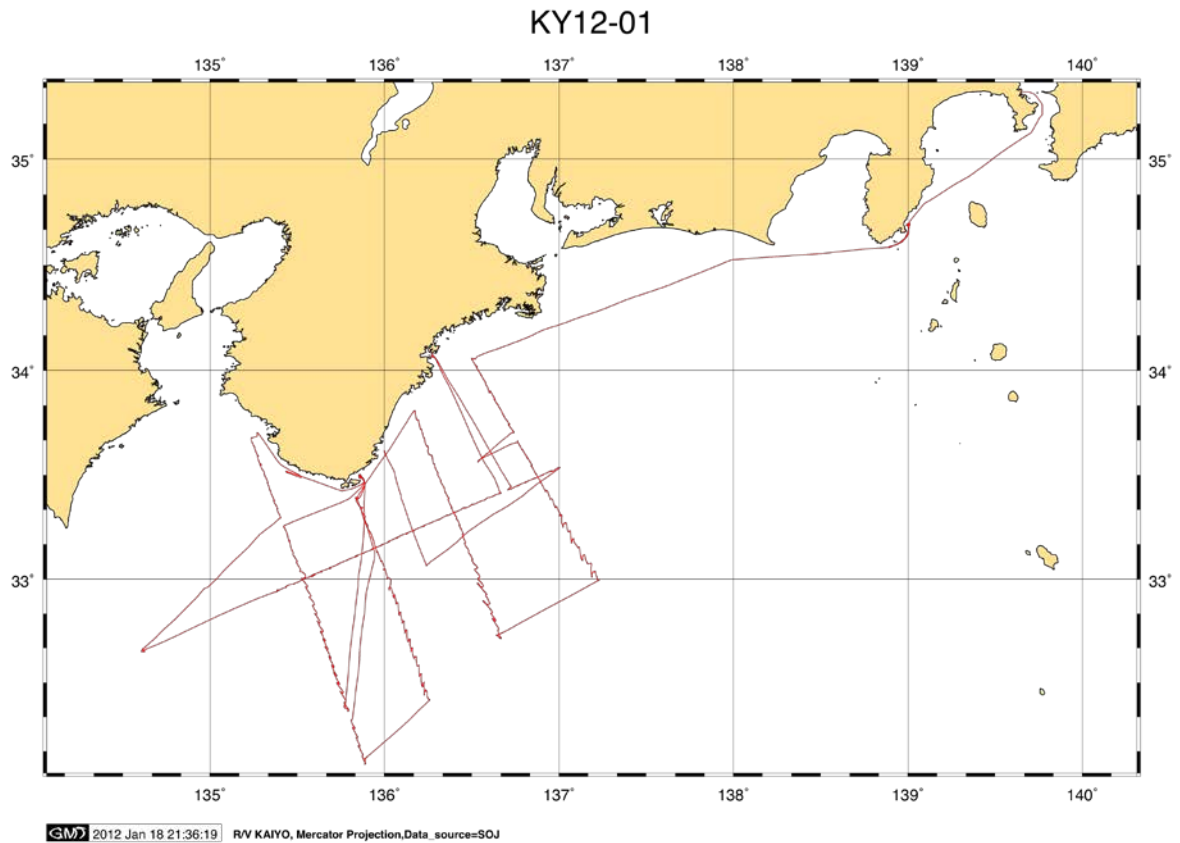


提出日： 年 月 日

クルーズサマリー

1. 航海情報

- (1) 航海番号、船舶名：KY12-01 Leg1, 「かいよう」
- (2) 航海名称：平成 23 年度 所内利用 受託研究「紀伊半島沖における地震探査および自然地震観測調査研究」
- (3) 研究課題名：受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」
- (4) 航海期間、寄港地：
2012/01/04-01/19, JAMSTEC (横須賀) - 新宮 (和歌山)
- (5) 調査海域名：四国沖～紀伊半島沖
- (6) 調査マップ：



2. 研究参加者

- (1) 首席研究者 [所属機関名]: 海宝由佳 [JAMSTEC]
- (2) 課題代表研究者 [所属機関]: 金田 義行 [JAMSTEC]
- (3) 研究参加者リスト:

小平 秀一[JAMSTEC]
高橋 成実[JAMSTEC]
尾鼻 浩一郎[JAMSTEC]
高橋 努[JAMSTEC]
山本 揚二郎[JAMSTEC]
海宝 由佳 [JAMSTEC]
三浦 誠一 [JAMSTEC]
藤江 剛[JAMSTEC]
佐藤 壮[JAMSTEC]
山下 幹也[JAMSTEC]
野 徹雄[JAMSTEC]

仲西 理子 [JAMSTEC]
朴 進午 [JAMSTEC]
瀧澤 薫 [NME]
野口 直人[NME]
岩城 安美 [NME]
松本 浩幸 [JAMSTEC]
星野 政之 [JAMSTEC]
柏瀬 憲彦 [JAMSTEC]

3. 実施内容：

- (1) 目的：

本航海は、受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」の一部であり、紀伊半島沖付近における地殻構造の解明と地震観測の実施が目的である。

過去千年以上にわたり大地震の発生が知られている南海トラフ沈み込み帯では、過去の地震発生様式から、地震発生帯がいくつかのセグメントに分かれていることと、時折それらが連動することが知られている。紀伊半島沖はそれらの地震破壊の開始点の一つであり、東南海と南海のセグメントの間に位置している。

これらのセグメント化と連動をコントロールする構造要因を知るためには、詳細な構造の変化と沈み込み帯の地震活動を知ることが必要である。この航海での目的は、紀伊半島沖周辺での構造と地震活動を明らかにすることである。

(2) 調査項目：

1) 海底地震計(OBS)回収

147 台の OBS (KR11-09 で 150 台設置) を回収した。このほか、3 台が未回収である。

KR10-11 で設置され、未回収であった長期観測用 OBS (NT14) につき、応答がなく、浮上もなかったことを確認した。

2) 長期観測用海底地震計(OBS)設置

紀伊半島沖において、1 台 (L13) 設置した。

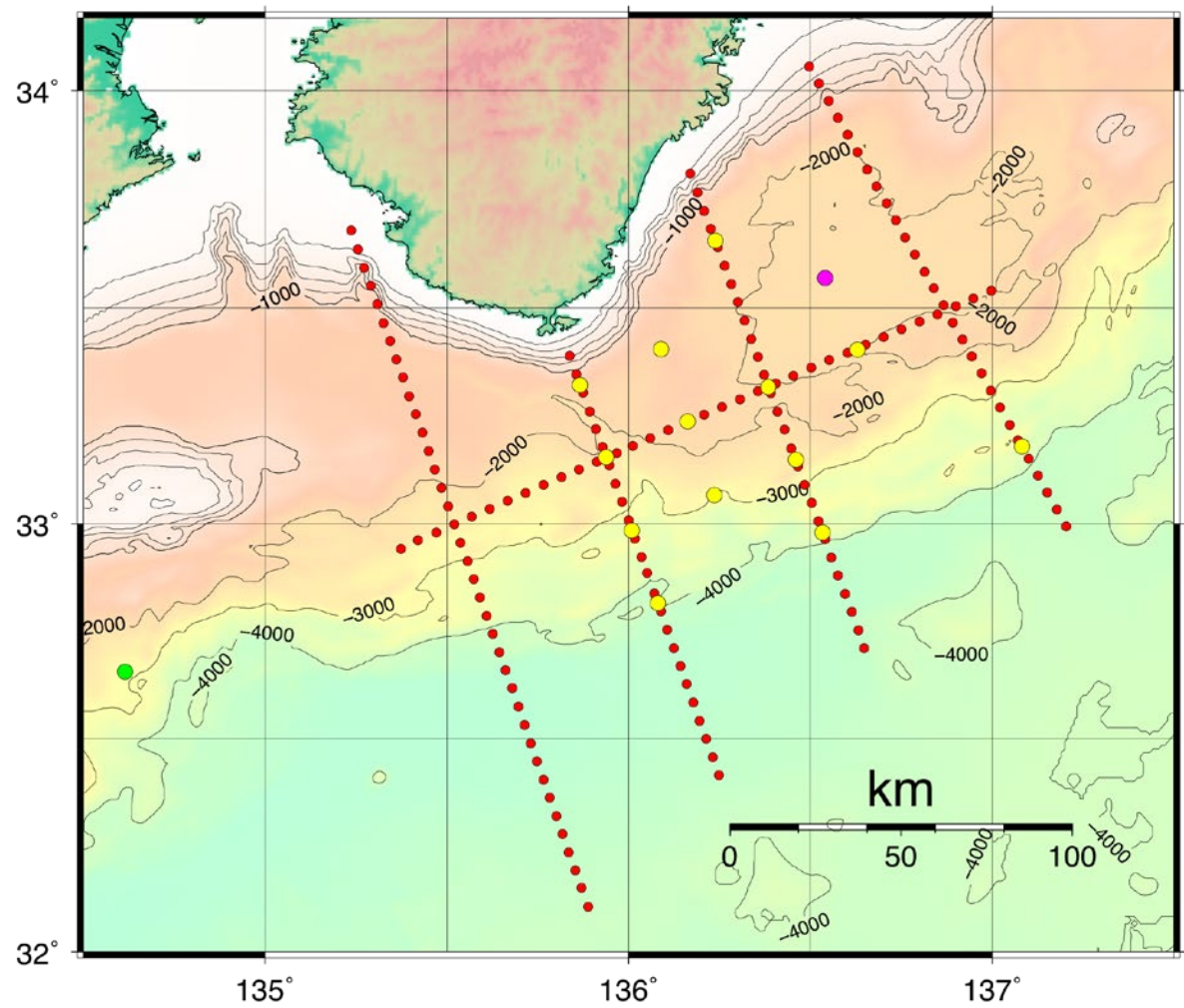
3) 長期観測用海底地震計(OBS)応答確認

航海中に KR10-11 で設置済みの 13 台 (L01~L12, L14) の呼び出しを行った。

(3) 調査日程：

日付		記事
2012/01/04	水	JAMSTEC 出港、回航
2012/01/05	木	伊豆半島沖にて荒天待機
2012/01/06	金	調査海域へ回航、OBS 設置、回収、呼び出し
2012/01/07	土	OBS 回収、呼び出し
～		
2012/01/10	火	同上
2012/01/11	水	同上、荒天回避のため串本へ回航
2012/01/12	木	調査海域へ回航、OBS 回収、呼び出し
2012/01/13	金	同上、荒天回避のため串本へ回航
2012/01/14	土	調査海域へ回航、OBS 回収、呼び出し
2012/01/15	日	OBS 回収、呼び出し
2012/01/16	月	同上、荒天回避のため尾鷲へ回航
2012/01/17	火	尾鷲沖にて荒天待機
2012/01/18	水	調査海域へ回航、OBS 回収、呼び出し
2012/01/19	木	新宮着

(4) 測線図



赤丸は構造探査用 OBS、黄丸と黄緑丸は今回の航海で呼び出し確認を行った自然地震用 LOBS、マゼンダは設置した LOBS の位置を示す。